



俳句コンテスト表彰式

五・七・五に込められた風と恋

第8回を迎えた「風と恋の俳句コンテスト」(葛巻町俳句で文化の薫る町づくり実行委員会主催・藤岡徹委員長)の表彰式は十月十一日、町総合センターで町内外の入賞者ら約八十人が出席して行われました。また、当日の午前中に行われた「黛まどかさんと巡る吟行会」には約四十人が参加。紅葉に彩られた句材あふれる平庭高原を散策し、思い思いの句をひねりました。入賞作品は、次のとおりです。(奨励賞は15名に掲載・敬称略)



黛まどかさんと吟行会を楽しむ参加者



選者の黛まどかさんを中心に入賞者の皆さん

●最優秀賞
風 歩まねば風に押さるる羽拔鶏
杉本 東舟(青森県)

恋 桐の花逢う時いつも遠目癖
今岡 久代(沖縄県)

●優秀賞

風 無人駅秋風とるる老夫婦
渡辺 克己(千葉県)

石村 理(愛媛県)

風 山風へ蕎麦刈る音を加へけり
横井 和幸(愛知県)

恋 セーター編む右腕長き君のため
木野 ナオミ(栃木県)

●岩手日報社賞
風 秋風や馬の眼の濁りなく
船越 光政(山田町)

恋 相聞の一句を飾り星祭
高橋 キミ子(八幡平市)

●黛まどか町民特別賞

万緑の風をあつめて大風車
遠藤 真沙子(新町)

風 玄関に風を起こして帰省の子
山形 米蔵(新町)

黒牛の大きな背中野分立つ
村木 登(下町)

風 風に乗り白いボールが夏空へ
村田あすか(江刈中三年)

友達と走った後の涼し風
石角 嶺(葛巻中二年)

コスモスの花に包まれ風になる
角口 雅菜(葛巻中三年)

春耕や亡夫の言葉聞きながら
鳥居 京子(田の沢)

恋 近すぎて好きと言えない夏の恋
大川原 洋一(小苗代)

君の名を聞けずに過ぎし蟬の声
入月 俊昭(橋場)

恋 恋蜜深き沢へと落ち行けり
齋藤 誠子(下町)

向日葵に見へ隠れる少女の日
入月 静子(橋場)

恋 恋蜜闇に無言の影二つ
江波 静江(下町)

俳句を楽しもう

俳句をもっと身近に感じ、楽しましよう。今回は、「第八回葛巻町風と恋の俳句コンテスト」の優秀賞一点と奨励賞六点(町関係者分)の作品と受賞者が句に込めた思いを紹介します。

優秀賞 (恋の句)

すれ違うこと多かりし螢の火

高家 卓範(江刈川)



毎年、ことりさわ学園の子どもたちとヒメボタルを見に行っています。「ヒメボタルのメスは飛べないので、ピカッ、ピカッと光って飛んでいるのがオスで、草の上で光っているのがメスなんですよ」と、教えています。

ところが、毎年見ているけれど一緒にあったのを見たことがありません。今年もすれ違ってばかりです。よく恋螢といいますが、ホタルの恋も簡単にはいかないですね。そういえば、人の世界も…。

奨励賞 幼児・小学生の部 (恋の句)

クロローパーひとつあげるよあなたにも

本宮 明純(江刈小二年)



春に校庭で遊んでいるとき、たくさんの三つ葉のクロローパーを見つけた。その中の一つを友達にあげたんだよ。俳句は難しいけど楽しいです。

奨励賞 幼児・小学生の部 (恋の句)

校庭であの子と作る雪だるま

柳岡 有千花(葛巻小四年)



「何にしようかな」と考えているいろいろなことが浮かんでくるので俳句を作るのは好き。この句は、好きな子のことを考えて作りました。

奨励賞 中学生の部 (恋の句)

花火見る彼の横顔そつと見る

大峠 ひとみ(江刈中二年)



年齢にとらわれることなく、年老いても一緒に花火を見られる幸せと、その瞬間にふとお互いの横顔を見られたらいいなあという理想です。

奨励賞 中学生の部 (恋の句)

浴衣着た君の姿に目をそらす

森 純麗(葛巻中二年)



夏まつりの花火大会に毎年着る浴衣。彼女のいつもと違う姿に新鮮さと恥ずかしさと…。男の子目線になって詠んだ作品です。

奨励賞 高校生の部 (風の句)

教室に梅雨明けの風受験生

久保 冬樹(葛巻高三年)



受験勉強まったただ中の夏休みの課外授業。夏の暑さの中、ふと窓から心地よい風が教室を通り抜けた瞬間、思い浮かんだ句です。

奨励賞 高校生の部 (恋の句)

夕立が恋しき君をさらってく

猫俣 知里(葛巻高一年)



季節の中で好きな言葉「夕立」。あつという間に過ぎ去ってしまう夕立を見ていると、さらっていくという寂しい感じに似ているなと思いました。